

河野防衛大臣によるイージス・アショア停止表明について(談話)

2020年6月16日
安保破棄中央実行委員会
事務局長 東森英男

河野太郎防衛大臣は15日、陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」を秋田県の陸自新屋演習場と山口県の陸自むつみ演習場に配備する計画のプロセスを停止すると表明しました。

配備が狙われた秋田・山口ではこの間、地元住民などが粘り強い反対運動にとりくみ、両県では2019年の参院選で配備反対の野党統一候補が擁立され、秋田では当選を勝ち取りました。計画停止はこれらの配備反対の世論と運動の結果であり、当然の決定です。

この計画は、現下の新型コロナウイルス対策にも逆行するという点からも許されません。安倍政権は、トランプ米大統領に迫られた「米国製兵器爆買い」の一環であり、しかもアメリカ本土の防衛のための「イージス・アショア」に1兆円近くの巨税を費やそうとしていました。

そもそも「イージス・アショア」のレーダーやミサイルは開発中であり、実用性にも疑問が出ていました。河野大臣が今回停止の理由とした、ブースターの落下に関する技術的な不備についても、以前から指摘されていたものです。

したがって今回の停止表明は、コストの点でも配備の点でも無謀でずさんな計画全体が破綻したものです。

私たちは安倍政権に対して、「イージス・アショア」導入計画を白紙撤回するよう求めるとともに、F35戦闘機147機の大量購入をはじめとする大軍拡や、辺野古新基地建設を中止し、コロナ対策をはじめとする、国民のいのちと暮らしを守る政策に振り向けるよう求めます。

以上